

令和 5 年 6 月 13 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K11820

研究課題名（和文）植民地における旅券制度の構築と人の移動 - 蘭印・英領マラヤ・台湾をめぐる

研究課題名（英文）Institutionalizing passport system in the colony: Comparative studies on the Dutch East Indies, British Malaya, and Taiwan.

研究代表者

吉田 信 (Yoshida, Makoto)

南山大学・国際教養学部・教授

研究者番号：60314457

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,000,000 円

研究成果の概要（和文）：2020年度で最終年度を迎えた研究課題であったが、2020年初頭から世界的に拡大した新型コロナにより最終年度の研究を延長せざるを得なかった。しかしながら、2022年度に国外での研究活動が実施できたことにより、オランダ領東インドをはじめ、英領マラヤ、海峡植民地といった各植民地で発給された旅券について調査を進め、その成果の一部を論稿として整理し、研究書に掲載することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

国境を超えて人が移動する際に不可欠なのが旅券である。国際社会がいつどのような過程を経て旅券を携帯した出入国管理を制度化していくのか。植民地で発給された旅券を手がかりにこの課題に取り組んだ研究が本研究である。研究遂行中に発生した世界的なコロナウィルス感染症の拡大は、図らずも国際的な人の移動がもたらす影響と管理の意義について示すこととなった。

本研究では植民地で発給された旅券を分析することで、移動の形態に応じて多様な旅券が存在したことを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：Although the research project had reached its final year in 2020, due to the Covid-19 pandemic, which expanded globally from the beginning of 2020, the project finished in 2023. However, as we were able to conduct research activities outside Japan in 2022, we could access stored historical documents and passports issued in various colonies, including the Dutch East Indies, British Malaya and the Strait Settlements. The academic article based on these research activities was published in a research book.

研究分野：国際関係論

キーワード：植民地 帝国 国籍 旅券 パスポート 移動

1. 研究開始当初の背景

本研究開始以前は、植民地住民の法的区分を主な研究対象とし、科学研究費による助成を受け研究を進めてきた。植民地住民の法的区分は、住民をいくつかの法的範疇に分けており、該当する住民集団の基準が重要であった。本研究は、それぞれの住民の身分証明となる旅券に着目し、それまでの研究課題を発展させたものとなる。

2. 研究の目的

植民地において、旅券制度はどのような背景で導入されたのか。さらに、導入された旅券が時代を経てどのように変遷していったのかを明らかにするのが本研究の目的であった。これを、オランダ領東インドを中心に、日本統治下の台湾、英領マラヤの状況を視野に入れつつ明らかにしていくのが研究目的である。

3. 研究の方法

本研究は公文書館での史資料の調査・収集とその解読が主な研究方法である。調査対象となる史資料を収蔵している公文書館は、オランダの国立公文書館（ハーグ）、英国の大英図書館、国立公文書館（ロンドン）、台湾の中央研究院近代史研究所檔案館（台北）であり、研究期間内でこれらすべての文書館を訪問し、史資料の調査・収集を進めた。

オランダの国立公文書館では、オランダ本国での旅券制度の導入に関する史資料を収集する一方、オランダ領東インドに旅券制度が導入された経緯を調査した。

英国の大英図書館、国立公文書館では、英領マラヤで発給された旅券を調査する一方、英国の植民地での旅券制度の導入、旅券規則に関する調査を進めた。

台湾の中央研究院近代史研究所檔案館では、日本植民地期の史資料を対象として、旅券制度の導入とオランダ領東インド政庁と台湾総督府・日本外務省との日本旅券に関わる外交折衝の記録を収集した。

しかしながら、研究活動が比較的順調に進んだのは2018年度と2019年度に限られ、研究の最終年度となる2020年度はコロナウイルス感染症の世界的拡大のため研究活動を控えざるを得ない状況となり、2度の延長をせざるをえなかった。

延長初年度となる2021年度は一定の制限のもとではあるものの国内での史資料収集を再開でき、国立国会図書館あるいは外務省外交史料館といった公文書館での調査をおこなった。続く2022年度は国内での史資料収集に加え、海外での研究調査を実施した。

4. 研究成果

研究成果としては、各種研究会での報告をはじめ、研究成果を論稿としてまとめ、公表した。以下に整理する研究成果は、帝国／植民地の境界を超える人の移動を支えた航路あるいは旅券といった制度を明らかにした点に意義がある。ひとまず研究成果の種別に分け、その意義について整理していく。

報告

(1)

学会等名：成城大学グローバル研究センター主催シンポジウム「帝国航路を往く」(成城大学)
報告タイトル：「帝国航路の裏庭」

ここでは、「帝国航路を往く」の著者である木畑洋一先生を迎えたシンポジウムに参加、英国の航路とオランダの蘭印航路について報告している。異なる帝国間を結びつける航路の有した意義を検討した。

(2)

学会等名：Contextualizing Taiwanese and Chinese Presented in Southeast Asia and Southeast Asians in Taiwan - in Both Historical and Contemporary Perspectives (台湾国立政治大学)
報告タイトル：Migration of Chinese from the Dutch East Indies to Taiwan

台湾の国立政治大学で開催された国際シンポジウムでの報告である。この報告では日本に植民地化される前後の台湾からオランダ領東インドとの間での人の往来について、オランダと台湾で収集した資料をもとに移動の実態について明らかにした。

(3)

学会等名：公開国際ワークショップ「比較を超えて：間-帝國的 (trans-imperial) 視座からの日本植民地研究」(同志社大学)

報告タイトル：蘭印の台湾籍民 帝国間を移動する人たちの旅券と国籍をめぐって

同志社大学で開催された国際ワークショップでの報告である。オランダ領東インドに居住する台湾から移動した人々の身分証明をめぐり、日本とオランダ側での交渉過程を取り上げ、導入されたばかりの日本旅券をめぐり取り扱いを明らかにした。

これらの報告は、国際的な帝国/植民地をめぐり研究において近年重要視されてきている帝国間の接触あるいは交流といった側面を取り扱うものであり、国内の帝国/植民地研究において新たな領域を開拓する意義を有している。これら報告は、さらに論稿として整理され、論文あるいは著書として公刊された。

論文

(1)

雑誌名：月間みんぱく

論文名：スリナムの奴隷制記念碑をめぐって

「月間みんぱく」への寄稿。オランダの国立公文書館、英国の大英図書館での資料収集の際に集めていたオランダ領西インド関係の資料をもとに、スリナムでの奴隷制の記憶が、記念碑という形態を媒介として社会にどのように可視化されているかを整理した論稿。

(2)

雑誌名：立命館国際研究

論文名：旅券・国籍・公定アイデンティティ：蘭印における台湾籍民の国籍証明をめぐって

台湾の国立政治大学や同志社大学での国際シンポジウムで行った報告内容を論稿としてまとめている。オランダ領東インドと台湾の間で、日本の植民地化前後でみられた人の移動の記録を整理して、蘭印に居住する台湾人(台湾籍民)の身分証明の問題を日蘭両国の外交交渉を分析することにより明らかにした論稿。とりわけ、導入から間もない日本の旅券を巡る日蘭両国の対応に焦点を当て、旅券による個人の身分証明の問題を取り上げている。

図書

すべて共著となるが、以下3冊の著書に論稿を収めている。

(1)

書名：史料が語る東インド航路：移動が生み出す接触領域

著者：水井万里子、大澤広晃、杉浦未樹、吉田信、伏見岳志編、和田郁子、橋本真吾、八嶋由香利、イヴェット・ランジェヴァ・ラベタフィカ、ルネ・バーシュウ、ナタリー・エファーツ、ヨハン・フォリー、辻本諭、宮内洋平

出版社：勉誠出版

出版年：2021

「第四部 変貌する東インド航路と帝国」に、「オランダ領東インドにおける旅券制度の展開—植民地パスポートの様式と機能をめぐって」と題する論稿と「【コラム】旅券のスタンプから再現する植民地と本国の移動」を掲載している。

(2)

書名：アジア法整備支援叢書インドネシア 民主化とグローバリゼーションへの挑戦

著者：島田弦編、茅根由佳、川村晃一、草野芳郎、河野毅、坂田有実、Jafar Suryomenggolo、新地真之、高野さやか、原田一宏、平石努、増原綾子、見市建、宮澤哲、宮澤尚里、吉田信

出版社：旬報社

出版年：2020

第2章に「法主体としての「インドネシア人」の創造」と題する論稿を収めている。オランダ国籍法の制定が植民地住民に対して及ぼした影響、植民地での独自の住民区分の形成と展開を経てインドネシア独立に伴うインドネシア国籍の形成を整理している。

(3)

書名：国書がむすぶ外交

著者：松方冬子編，橋本雄，清水有子，川口洋史，原田亜希子，木村可奈子，岡本真，古川祐貴，増田えりか，彭浩，蓮田隆志，山本文彦，吉田信

出版社：東京大学出版会

出版年：2019

「第二部 国書の周辺としての通航証」に「植民地の旅券制度——オランダ領東インドにおける移動の自由と旅券」と題する論稿を収めている。ここでは、オランダ領東インドに旅券の導入される背景と、人々の移動を管理する多様な旅券／通行証を整理している。

これらの研究成果をまとめる過程で、旅券制度の展開と公衆衛生との関係といった新たな検討課題が浮かび上がってきた。複数の帝国／植民地を超える人の移動に伴う感染症の拡大を契機として移動する人の物理的移動の管理に加え、衛生管理が植民地権力により問題視されていくのである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 吉田信	4. 巻 43
2. 論文標題 スリナムの奴隷制記念碑をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 月間みんぱく	6. 最初と最後の頁 8,9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 吉田信	4. 巻 31
2. 論文標題 旅券・国籍・公定アイデンティティ：蘭印における台湾籍民の国籍証明をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 立命館国際研究	6. 最初と最後の頁 855-879
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 吉田信
2. 発表標題 帝国航路の裏庭
3. 学会等名 成城大学グローバル研究センター主催シンポジウム「帝国航路を往く」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 YOSHIDA, Makoto
2. 発表標題 Migration of Chinese from the Dutch East Indies to Taiwan
3. 学会等名 Contextualizing Taiwanese and Chinese Presented in Southeast Asia and Southeast Asians in Taiwan - in Both Historical and Contemporary Perspectives（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1．発表者名 吉田信
2．発表標題 蘭印の台湾籍民 帝国間を移動する人たちの旅券と国籍をめぐって
3．学会等名 公開国際ワークショップ「比較を超えて：間-帝國的（trans-imperial）視座からの日本植民地研究」（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

〔図書〕 計3件

1．著者名 水井万里子、大澤広晃、杉浦未樹、吉田信、伏見岳志編、和田郁子、橋本真吾、八嶋由香利、イヴェット・ランジェヴァ・ラベタフィカ、ルネ・パーシュウ、ナタリー・エファーツ、ヨハン・フォリー、辻本論、宮内洋平	4．発行年 2021年
2．出版社 勉誠出版	5．総ページ数 240
3．書名 史料が語る東インド航路：移動が生み出す接触領域	

1．著者名 島田弦編、茅根由佳、川村晃一、草野芳郎、河野毅、坂田有実、Jafar Suryomenggolo、新地真之、高野さやか、原田一宏、平石努、増原綾子、見市建、宮澤哲、宮澤尚里、吉田信	4．発行年 2020年
2．出版社 旬報社	5．総ページ数 546
3．書名 アジア法整備支援叢書インドネシアー民主化とグローバリゼーションへの挑戦	

1．著者名 松方冬子編、橋本雄、清水有子、川口洋史、原田亜希子、木村可奈子、岡本真、古川祐貴、増田えりか、彭浩、蓮田隆志、山本文彦、吉田信	4．発行年 2019年
2．出版社 東京大学出版会	5．総ページ数 360
3．書名 国書がむすぶ外交	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<http://www.fwu.ac.jp/la/avanti/>

福岡女子大学国際文理学部国際教養学科国際関係論研究室

*2021年3月末まで運用

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------